

公益財団法人 J R 西日本あんしん社会財団
平成 29 年度 事業報告
(平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日まで)

I 事業概要

平成 29 年度事業計画に基づき、次なる事業展開の基盤づくりを図りながら、安全で安心できる社会の実現に資する事業を多面的に推進してきた。

1. 心身のケアに関わる事業

(1) グリーフケアに関わる人材養成講座への助成（上智大学グリーフケア研究所人材養成講座）

誰もが安心して悲嘆等に伴うこころのケアを受けられる社会を目指し、グリーフケアに関する専門知識・技能を持って実践に携わる人材や地域社会においてグリーフケアを提供する市民ボランティアを養成している上智大学グリーフケア研究所の「グリーフケア人材養成講座」に対し、寄付助成を行っている。

平成 29 年 4 月には「グリーフケア人材養成課程」に 36 名が入学し、平成 28 年 4 月に入学した 2 年制課程の「基礎コース」の 18 名、「臨床コース」の 11 名が平成 30 年 3 月に修了した。

(2) 心身のケアに関する啓発活動

① 「いのちのセミナー」～いのちを見つめて いまを生きる～ の開催

前年度まで実施した連続講座「『いのち』を考える」と「いのちのセミナー」を統合し、悲嘆やグリーフケアといったテーマはもとより、多様な観点から「いのち」をとりあげる「いのちのセミナー」を 8 回開催した。

・第 1 回開催概要（会場：松下 IMP ホール、時間：13:30～15:00）

日付	講師		参加者
5/28(日)	岸見 一郎	哲学者	約 810 名

・第 2～7 回開催概要（会場：毎日新聞オーバルホール、時間：18:30～20:00）

日付	講師		参加者
7/25(火)	安田 一之	大阪学院大学教授、臨床心理士	約 470 名
8/18(金)	積 徹宗	相愛大学教授、如来寺住職、NPO 法人リライフ代表	約 470 名
10/ 6(金)	若松 英輔	批評家、随筆家	約 460 名
10/27(金)	本郷由美子	大阪教育大学附属池田小児童殺傷事件被害者遺族、精神対話士	約 460 名
11/24(金)	川島 実	医師、華嚴宗僧侶	約 450 名
1/12(金)	佐々木慈瞳	音羽山観音寺副住職	約 480 名

・第 8 回開催概要（会場：松下 IMP ホール、時間：13:30～15:00）

日付	講師		参加者
3/ 4(日)	名越 康文	精神科医、相愛大学客員教授、高野山大学客員教授	約 740 名

2. 地域社会の安全構築に関わる事業

(1) 「安全セミナー」の開催

東日本大震災以降、あらためて災害に対する備えと対応の重要性が広く認識されたことに加えて、熊本地震や激甚化する自然災害等を受け不安感が高まっていることから「防災・減災」をテーマに、市民・地域社会の安全に関する啓発活動として開催した。

<開催概要>

日 時：平成 29 年 9 月 6 日（水） 13 時 30 分～16 時 30 分
会 場：東灘区民センター うはらホール
講 演：①富永 良喜 兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科教授 「減災の心理学と復興の心のケア」
②諏訪 清二 防災学習アドバイザー・コラボレーター、神戸学院大学現代社会学部非常勤講師、兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科特任教授 「災害体験と防災学習」
対 談：富永 良喜 × 諏訪 清二 「防災・減災 ～心理支援と防災教育から」
参加者：約 530 名（応募総数：675 名）

(2) 「救急フェスタ in 神戸 第 5 回いのちのリレー大会」の開催

幅広く救命処置の重要性について知っていただくことを目的に、救命処置の的確さを競う「いのちのリレー大会」を実施し、過去最多の 27 組が参加した。そのほか、心肺蘇生・AED 体験コーナーをはじめ、駅ホーム非常ボタンの体験など、JR 西日本や消防、関係団体等と連携・協力し、神戸地区で初めて「救急フェスタ」を開催した。

日 時：平成 29 年 11 月 3 日（金・祝） 13 時 00 分～16 時 00 分
会 場：JR 神戸駅南 デュオドーム
参加者：いのちのリレー大会 27 組（81 名） 小学生 7 組、中学生 7 組、高校生 4 組、大学生・一般 9 組が参加し、倒れている人を発見してから、救命処置を行い救急隊に引き継ぐまでの一連の流れを 3 人 1 組のチームで協力して実演し、その的確さを競い合った。4 ブロックに分けた予選から各ブロック上位 2 チームが決勝へ進出し、大学生のチームが優勝した。
体験者：AED 体験 53 名 駅ホーム非常ボタン体験 300 名

(3) AED 訓練器等の助成による救命処置の普及啓発

救命処置の普及を進めるべく、救命処置の普及啓発活動を積極的に行う団体を公募し、AED 訓練器・訓練人形を助成した。

	学校	NPO 法人	その他	計
応募件数(セット)	2(5)	4(15)	17(45)	23(65)
助成件数(セット)	2(3)	2(3)	9(14)	13(20)

3. 「安全で安心できる社会」の実現に関わる事業

(1) あしなが育英会への助成

事故や災害、病気等様々な理由で親をなくした子どもたちへの心のケア活動の一環として取り組んでいるあしなが育英会主催の「高校奨学生のつどい」及び小・中学生を対象とした「キャンプのつどい」に対し、寄付助成を行っている。平成29年度は、関西地区における「高校奨学生のつどい」が、8月20日から23日まで、総勢207名の高校奨学生及びリーダー役・運営スタッフの先輩奨学生たちが参加し開催された。また、小・中学生を対象とした「キャンプのつどい」が、8月20日から22日まで、総勢101名の子どもたち及び学生ボランティアが参加し開催された。

(2) いのちの電話（近畿ブロック7団体）への助成

現代社会を生きる中で深刻な悩みを抱え、助けを必要としている人からの電話相談を行っている「いのちの電話」の相談員のスキルアップやメンタルケア等に関する取り組みに対し、寄付助成を行っている。平成29年度より、電話相談の一層の充実、団体間の協力の推進などを図るため、近畿2府4県の7団体に対して助成を行った。

(3) 地域における各種活動等に対する支援協力

当財団では上記のほか、財団の設立趣旨に合致し公益性や社会的必要性が高いと認められる活動に対し協賛を行っている。

- ① 京阪神に拠点のある遺族会が、個々の遺族会のレベルアップを目指して実施する勉強会を盛り込んだ交流会の開催に対し、協賛を行った。
- ② 一般財団法人日本AED財団による、学校教育を基盤に全ての国民が心肺蘇生教育を受けることのできる環境整備を目的とした、小学校安全教育副読本の作製に対し協賛を行った。(298校に配付)

4. 公募助成事業

(1) 「平成30年度公募助成（活動及び研究）」の実施（募集、審査、決定）

当財団では、設立初年度より、事故・災害に対する備えやその後のケアに関連する活動・研究を対象とした公募助成を実施している。

平成29年度は、平成30年度に行われる活動や研究を対象とした助成事業の公募を実施した。応募のあった127件について審査した結果、55件、5,293万円の助成を行った。採択率については43%となった。

平成30年3月には、助成対象団体や研究者を対象に贈呈式を開催するとともに、助成先相互のネットワークづくりを目的に交流会を実施した。

	応募件数	助成件数	金額
活動助成	50件	27件	1,661万円
活動助成（特別枠）	18件	9件	629万円
研究助成	59件	19件	3,003万円
計	127件	55件	5,293万円

(2) 第7回公募助成成果発表会

助成活動の成果の社会的還元や助成先同士の交流などを目的に、平成28年度に実施された助成活動及び研究の成果発表を行う「成果発表会」を開催した。

<開催概要>

日 時：平成29年7月30日（日）

〔発表会〕13時30分～16時30分（ステージ発表）

〔交流会〕16時45分～18時00分（ポスター発表含む）

場 所：ホテルグランヴィア大阪

発表者：51組（ステージ発表8団体・研究者2名、ポスター発表43団体）

参加者：約120名（発表者、傍聴者、役員等）

II 財団運営に関わる事項

1. 機関運営（評議員会、理事会、事業審査評価委員会等の開催）

(1) 評議員会

開催回数：1回

決議事項等：平成28年度計算書類等の承認、評議員の選任、理事の選任、監事の選任 等

(2) 理事会

開催回数：4回

決議事項等：業務執行状況報告等のほか、以下の事項について決議を行った。

平成28年度事業報告及び計算書類等の承認、事業審査評価委員会委員の選任、AED訓練器等助成事業審査委員会委員の選任、評議員会の招集、設立10周年記念事業の基本方針の承認、「上智学院、あしなが育英会、いのちの電話」への助成の承認、「平成30年度(2018年度)公募助成(活動及び研究)」の採択決定の承認、平成30年度(2018年度)AED訓練器等助成事業における採択決定の承認、2018年度基本財産の運用基本方針の承認、2018年度事業計画及び収支予算の承認、2019年度公募助成(活動及び研究)及びAED訓練器等助成事業の基本方針の承認 等

(3) 事業審査評価委員会

開催回数：5回

審議事項等：理事長からの諮問に基づき、以下の事項について審議を行い、理事長へ答申を行った。

平成28年度助成事業の実績・成果等の確認評価、平成30年度公募助成(活動及び研究)の内容及び方法に関する指導・助言、平成30年度(2018年度)公募助成(活動及び研究)の選考、2018年度助成先の審査 等

(4) AED訓練器等助成事業審査委員会

開催回数：2回

審議事項等:理事長からの諮問に基づき、以下の事項について審議を行い、理事長へ答申を行った。

平成 28 年度 AED 訓練器等助成事業の実績・成果等の確認評価、平成 30 年度 AED 訓練器等助成事業の内容及び方法に関する指導・助言、平成 30 年度(2018 年度) AED 訓練器等助成事業助成先の選考 等

2. その他

(1) 基本財産の運用

基本財産 20 億円は、西日本旅客鉄道株式会社の無担保社債 (20 年物) により 10 億円、国債 (20 年物) により 10 億円を継続して運用した。

(2) 立入検査の受検

内閣府による立入検査を受検、特に指摘事項はなかった。

(3) 広報活動及び情報公開

当財団のホームページにおいて、財務資料等の基本情報の開示や財団事業の実施概要、実施結果等の公表を行った。また、事業実施時におけるプレス発表のほか、JR 主要駅へのポスター・パンフレットの掲出、財団紹介用パンフレットの製作・配布、広報誌「R e l i e f」の発行 (平成 29 年 4 月、7 月、10 月、平成 30 年 1 月) に加え、平成 30 年度 (2018 年度) 公募助成の募集にあわせた広報 (大学及び中間支援団体等訪問) を行うなど、財団事業の認知度向上のための広報活動を実施した。

(4) 報道実績

- ・NHK (4/4・奈良放送局・タニユース) 「4/2・『救命処置の普及を』 AED 体験会」
- ・読売新聞 (4/24・夕刊・社会面) 「救われた命 今度は私が〜執刀医と活動 被災者守るのが使命」
- ・RCCテレビ/中国放送 (5/9・タニユース) 「5/9・より高台の避難所へ 幼稚園と保育園児が合同訓練」
- ・両丹日日新聞 (8/5・日刊・1 面) 「8/3〜7・『自然の中でリフレッシュ 三和町でサマーキャンプ』
[公募助成先 みわのわ]
- ・神戸新聞 (8/11・朝刊・3 面) 「9/6・防災テーマに神戸で講演会 来月、JR 西の財団」
- ・NHK (8/20・全国ニュース) 「広島土砂災害から 3 年 脱線事故遺族がコンサート」
[公募助成先 県営緑ヶ丘・小原山地区土砂災害犠牲者慰霊碑建立推進委員会、虹色の音]
- ・中国新聞 (8/21・朝刊・21 面) 「尼崎脱線遺族がライブ」 [虹色の音]
- ・神戸新聞 (8/23・朝刊・26 面) 「11/3・救命措置普及へ 11 月競技会実施 神戸で、参加者募集」
- ・NHK (8/24・神戸放送局ニュース) 「脱線事故遺族が広島で追悼コンサート」 [虹色の音]
- ・京都新聞 (9/4・朝刊・6 面) 「『AED 訓練器等助成事業』 募集」
- ・神戸新聞 (11/4・朝刊・23 面) 「11/3 27 組が救命措置技術競う 心肺蘇生法や AED 使用で」
- ・神戸新聞 (1/12・夕刊) 「防災ガイド スペイン語で 震災 23 年」 [ひょうごラテンコミュニティ]
- ・神戸新聞 (3/26・朝刊・15 面) 「3/25 荒田地区の防災福祉団体に AED 訓練器を寄贈」
- ・奈良新聞 (3/29・3 面) 「AED 訓練器の贈呈式 奈良市内で実施」